

かがやきプロジェクト

新川地域発展賞受賞記念祝賀会



次 第

○研究発表

【交流という視点からみた 富山県・笹川地区の観光】

発表者 富山国際大学現代社会学観光専攻・斎藤ゼミ生3年

○祝 賀 会

1. 開 会
2. 実 行 委 員 長 挨 拶
3. 来 賓 祝 辞
4. 乾 杯
5. 懇 談 交 歓
6. 万 歳
7. 閉 会



— 目 次 —

受 賞 の こと ば	・ ・ ・	2
選 考 の こと ば	・ ・ ・	3
本 賞 紹 介	・ ・ ・	4
かがやきプロジェクトの概要	・ ・ ・	5
かがやきプロジェクトのあゆみ	・ ・ ・	7
主 な 活 動 内 容 紹 介	・ ・ ・	8
新 聞 記 事	・ ・ ・	11

平成27年 第32回 新川地域発展賞 授賞式



受賞のことば

第32回新川地域発展賞(新川経済倶楽部主催)において「笹川自治振興会・かがやきプロジェクト」が本賞を受賞し、喜びに堪えません。

かがやきプロジェクトは、平成25年12月に県から「北陸新幹線時代の定住・半定住受入モデル地域育成支援事業」の一地区に選定され、住民を主体にしながら、県や町などと連携を密にし、事業に取り組んでまいりました。

このプロジェクトの特徴は、それぞれの課題に向かって創造的にチャレンジする8つの推進チームで組織されております。各推進チームのアドバイザーには、地区内外の知識人をはじめ、町の専門知識に長ける職員を配置し、笹川の将来を担うリーダー等に助言・指導をいただきながら、各プロジェクトを推進してきました。

その意味で、この度の受賞はプロジェクトチームのみならず、この事業推進に関わってくださった皆様も含めた表彰だと受け止めています。

近年、笹川地区のような中山間地では、急激な人口減少と高齢化により暮らしの環境は厳しいものとなっておりますが、受賞を期に一層プロジェクトの課題である「子どもの声がこだまする『安心・安全な里』笹川」に取り組み、笹川自治振興会も住民の叡知を結集しつつ、関係各位のお知恵とお力を頂きながら、普遍的な目標である「みんなが笑顔で 住みやすい里 笹川づくり」を目指していきたいと思います。

笹川自治振興会・かがやきプロジェクト実行委員会
委員長 小林 茂和

選考のことば



第32回新川地域発展賞選考委員会

委員長 上田 洋一

新川地域発展賞も回を重ね、32回目を迎えることとなりました。「地方創生」が叫ばれる今、改めてこの事業が果たしてきた意義と、新川地域の豊かな可能性を感じるものです。

今回の選考には選考委員を始め会員各位から個人8、団体10の計18件の推薦が寄せられ、慎重審議の結果、本賞1、特別賞1、地域社会賞2、奨励賞2、青年育成賞1、今回から新たに設けられた新人賞2の計9件を選考いたしました。ここに選考委員を代表して選考の概要を紹介致します。

本賞を受賞された「朝日町笹川自治振興会・チームかがやき」（朝日町）は高齢化と人口減少が進む中、特産品の開発や盆踊りの復活など地域の再興を目指し、住民らでプロジェクトチーム「かがやき」を立ち上げ、様々な事業に取り組んでいます。地方を取り巻く状況が厳しさを増している今、笹川自治振興会の活動は過疎化に悩む各地方に希望の灯となり、先導的な役割を果たすものと期待され、県の定住促進モデル地区にも選ばれるなど、本賞に相応しいと高い評価を受けました。

特別賞のプロ野球ロッテマリーンズの石川 歩投手（魚津市出身）は、昨年入団選手で唯一2桁白星を挙げ、パリーグの新人王に選ばれました。県出身選手としては初の新人王で、来シーズンの開幕投手候補でロッテのエースとしての活躍が期待されます。

地域社会賞の「宇奈月モーツァルト音楽祭実行委員会」（黒部市）は演奏曲目がモーツァルトだけと言うユニークな音楽祭で、プロ・アマ誰もが参加出来、昨年で5回を重ね、県外からの参加者も増えるなど、宇奈月温泉の新しい魅力となっています。地域社会賞のもう1件の「前沢カンナロード実行委員会」（黒部市）は1984年にカーター元米大統領が黒部市を訪れた際、通りを花で彩ったことをきっかけに、前沢地区の各団体が協力して毎年植栽を行っており、人々の目を楽しませています。

奨励賞の櫻井 麻那さん（魚津市）は昨年のNHKのど自慢チャンピオン大会で見事グランドチャンピオンに輝きました。小さい頃から市民ミュージカルなどのステージに立ってきた櫻井さんの夢はブロードウェイの舞台に立つこと。未来のミュージカルスターを応援したいと思います。同じく奨励賞の「入善町ジャンボ西瓜生産組合・島瀬 登組合長」（入善町）はユニークな楕円形で日本一大きいジャンボ西瓜の栽培に取り組み、今や富山を代表する夏の特産品となっています。長年改良を重ね、高い品質を保持する組合員の努力は称賛に値します。

青少年育成賞の「魚津東部中学校 男女駅伝チーム」は昨年が男子チーム、1昨年は女子チームが県中学校駅伝競走大会で優勝と、近年目覚ましい成績を収め、強豪校として注目されています。富山県の駅伝競走の底上げにつながることを期待されます。

今回から新たに設けられた新人賞には二人が選ばれました。レスリング選手の中村成実さん（魚津市上野方小学校6年）は小学1年生からレスリングを始め、男子のクラスに出場した全国大会で優勝という有望選手。飛山 大河君（黒部市高志野中学3年）は昨年、陸上の県選手権大会において100m、200mともに県中学新記録を達成、北信越大会でも200mに優勝、今後の成長が大いに期待されます。オリンピック出場が夢という二人に声援を送りたいと思います。

以上の選考結果に見られますように、各賞の受賞者はいずれも賞制定の趣旨に照らして、それぞれの分野で立派な業績を挙げられ、新幹線開業を控える新川地域に希望と期待を与えるものと高い評価を得られました。

終りに候補を推薦していただくとともに、真剣に審議していただいた選考委員の皆様へ深く感謝を申し上げます。

本 賞

朝日町笹川自治振興会・ かがやきプロジェクト

朝日町の東部、笹川上流の山合いの中山間地にあるのが笹川地区です。

人口減少が進み、地区の人口はとうとう300人を切りました。高齢化率はおよそ50%と住民の半数が65歳以上の高齢者です。

そんな笹川地区ですが、近年、特産品の生産に積極的に取り組んだり、10年ぶりに盆踊りを復活させるなど地域活動が活発な地域であると評判になっていて、魅力を感じた外国人家族など地区外からの移住者が増えています。(地区への転入・転居 H24年度5人→H25年度10人に増加)

こうした笹川地区の取り組みが、県や朝日町の目にとまり、昨年度、県の「定住・半定住受入モデル地域育成支援事業」の地域に指定され、新しい体制で取り組みを始めました。それが、「かがやきプロジェクト」です。

このプロジェクトは、地区内に「笹川のブランド化推進チーム」や「特産品の充実推進チーム」「交流・体験施設推進チーム」など8つのチームを作り、地元の人リーダー、サブリーダーとなって地域の活性化に取り組むものです。

住民たちは、ワサビや炭など特産品のブランド化に取り組む一方、鳥獣被害を受けにくい「実バラ」の栽培を始めました。また町が古民家を改修して来春に整備する交流体験施設を使って、定住・半定住につながる宿泊体験事業を行うために、石川県能都町など先進地域の視察を積極的に行っています。

笹川地区の人たちは、少子高齢化、人口減少という厳しい環境をものともせず、住民一人一人が笹川の将来を考えて自分のことから行動しています。

その姿は、東京一極集中を是正し、多様性を持った「住みやすい地方の復権」をめざす、国の「地方創生」の取り組みに重なるとともに、同じように少子高齢化、人口減少に悩む新川の各地域にとっても先導的なモデルとなることから、新川地域発展賞の本賞に推薦するものです。



「住みたい里・笹川」推進プロジェクト

(定住・半定住受入モデル地域育成支援事業)

現状・課題

- 朝日町の中でも地域活動が活発で、特産品の生産や地域の活性化と生き甲斐を深める取組みを積極的に行っている
- これらの取組みにより、笹川の住み心地の良さに移住者が増え始めており、中には外国からの移住者もいる
- 平成27年春に開業する北陸新幹線を見据えた観光戦略をより一層進める必要がある
- 高齢化率が47.06% (平成25年10月現在)と高齢化が進行している
- すぐに住める空き家が少なく、マッチングに苦慮している
- 有害鳥獣対策により被害が減少しているが、ヨウガ畑や家庭菜園が荒らされるなど完全に防ぎきれていない

課題解決のために考えること

1. より安全・安心な里にするための取組み
2. 生産者育成のために、特産品の開発・拡充
3. 地域・人・モノ(特産品・文化財)をPRする宣伝方法の確立(生産者、地区トップセールス等)
4. 交流人口拡大のための施設の検討及びきめ細かな空き家情報の管理、活用方法の検討
5. 「人の顔が見える」地域参画体制による、定住者が地域に溶け込みやすくなる環境づくり

「笹川を訪れたい、触れたい、暮らしたい」と思えるような基盤づくり

かがやきプロジェクト

①暮らしの安全、安心推進チーム

チームリーダー: 深松隆
副リーダー: 竹内伸
支援者: 折谷信祐
アドバイザー: 折谷政明

- ・子どもの居場所づくり
- ・近隣住民との関わり
- ・買い物支援の拡充
- ・有害鳥獣対策の拡充



②住まいの提供推進チーム

チームリーダー: 折谷克則
副リーダー: 長井伸二
支援者: 竹内雅和
アドバイザー: 森匠平

- ・専門家、有識者等との連携
- ・空き家情報の管理
- ・円滑なマッチング



③就労支援推進チーム

チームリーダー: 長井巧
副リーダー: 長井浩信
支援者: 長井勝路
アドバイザー: 太谷和哉

- ・行政やハローワークからの情報を迅速に提供
- ・就労情報の整理



④交流・体験施設推進チーム

チームリーダー: 竹内重之
副リーダー: 長井靖彦
メンバー: 上澤聖子
支援者: 長井昌弘
アドバイザー: 坂東秀昭、大菅洋平

- ・交流・体験・宿泊施設等の検討
- ・空き家、古民家の活用検討
- ・自然体験の一環としての整備



⑤特産品の充実推進チーム

チームリーダー: 折谷建夫
副リーダー: 小林可
支援者: 小林茂和
アドバイザー: 竹内康博

- ・新たな「笹川発信するウリ」の創造
- ・特産品の安定供給の実現
- ・生き甲斐づくり



⑥笹川のブランド化推進チーム

チームリーダー: 竹内涉
副リーダー: 竹内信宏
支援者: 折谷忠行
アドバイザー: 北山由佳

- ・メディアを活用した情報発信
- ・生産者や地区トップセールス



⑦史跡等のブラッシュアップ推進チーム

チームリーダー: 折谷隆三
副リーダー: 竹内益裕
メンバー: 松平信恵
顧問: 折谷隆、入江修三
支援者: 勝田忠温
アドバイザー: 越坂邦夫、水野瑠美子

- ・文化財の補修
- ・地域ぐるみの継承(担い手育成)
- ・観光客が親しみやすい環境づくり



⑧ウェルカム推進チーム

チームリーダー: 竹内礼子
副リーダー: 小塚嘉久子
メンバー: 山本さとみ、谷内久美子
支援者: 小林茂和
アドバイザー: 水野瑠美子

- ・笹川観光ガイドの育成
- ・「おもてなし」の研究
- ・おもてなしコースの開発



笹川地区の役割

- ・計画の策定、実行
- ・上記8項目を推進チームを編成
- ・地域内の企画・調整

実行委員長・・・小林 茂和
副実行委員長・・・長井 昌弘
書記・・・谷内 久美子
書記補助・・・平松 亮

意見交換、協議

意見交換、協議

富山県の役割

- ・計画実行へのアドバイス
- ・情報提供
- ・財政支援

朝日町の役割

- ・計画の立案・推進
- ・財政支援
- ・事務局(企画政策室)

笹川の将来像について三者で共に考える

協議
補助金申請・交付

定住希望者が笹川を訪れ、住民の「人柄」や地域の自然の良さを体感してもらう

地域とのマッチングにより
定住・半定住へ！

子どもの声がこだまする「安全・安心な里」笹川



☆笹川地区の概要☆

笹川地区は、山に囲まれた山間集落であり、自然や歴史が豊かな地域です。

また、特産品の生産（実バラ・わさび・啓翁桜 etc）、地域の活性化、生きがい創出など、地域のつながりを深める活動を積極的に行っています。

近年では、移住者・移住希望者が増加しており、チェコやスイスなど海外からも2組の家族が移住してきています。

【人口】 281人《高齢化率47.8%》（平成27年2月1日現在）

【世帯数】 117世帯

【面積】 14.02km²

☆かがやきプロジェクトの概要☆

北陸新幹線開業により、首都圏との移動時間の短縮、交流人口や移住者の増加が見込まれることから、富山県では、平成25年度から「定住・半定住受入モデル地域育成支援事業」を開始しました。

笹川地区は県内で4カ所あるモデル地域の1カ所に選定され、「笹川に訪れたい、触れたい、暮らしたい」思えるような基盤整備を図るため、平成25年12月に「子どもの声がこだまする『安全・安心な里』笹川」を目指し、かがやきプロジェクト実行委員会を発足し、地域住民と町・県が一体となって地域の将来像を考えています。

☆地域における役割分担☆

「かがやきプロジェクト」として8つのテーマを設け、各推進チームを組織。チームリーダー・副リーダー・自治振興会からの支援者、知識人や行政からのアドバイザーを設置し、円滑な事業推進を行なっている。

《各推進チームについて》

- ① 「暮らしの安全・安心」推進チーム
⇒防犯・防火・防災・交通安全・電気柵の強化等
- ② 「住まいの提供」推進チーム
⇒空き家情報管理、所有者と希望者のマッチング
- ③ 「就労支援」推進チーム
⇒就労情報の整理・提供
- ④ 「交流・体験施設」推進チーム
⇒空き家・古民家の活用検討
- ⑤ 「特産品の充実」推進チーム
⇒特産品の開発、生きがい創出
- ⑥ 「笹川ブランド化」推進チーム
⇒生産者トップセールス、情報発信
- ⑦ 「史跡等のブラッシュアップ」推進チーム
⇒担い手育成、歴史に親しみやすい環境づくり
- ⑧ 「ウェルカム」推進チーム
⇒「おもてなし」の研究、観光コース整備

☆かがやきプロジェクトの主な歩み☆

年 度	月	活 動 内 容
2013年 (平成25年)	12	かがやきプロジェクトが発足 第1回新幹線開業に向けた「新川地区のツーリズムセミナー」受講
2014年 (平成26年)	1	第1回 農家民泊&体験交流セミナー参加 移住者との交流懇談会 交流体験施設の古民家改造検討会（交流・体験施設推進チーム）
	2	第2回新幹線開業に向けた「新川地区のツーリズムセミナー」受講 第2回 農家民泊&体験交流セミナー参加 石川県「春蘭の里」へ視察研修 富山国際大学公開講座を受講
	3	移住体験ツアーで移住者とツアー客の懇談会 空き家調査実施（住まいの提供推進チーム） 富山県議会傍聴(笹川の定住・半定住等の取り組みについて) かがやきプロジェクトのセミナー(笹川のお宝と歴史 北陸の宮) 第3回 農家民泊&体験交流セミナー参加 「ほたる最中」を企画発売（笹川ブランド化推進チーム） 木曾義仲・巴頭彰記念講演に参加 「ワンコイン おもてなし 人づくり講座」に参加
	4	諏訪山の山道整備（史跡等のブラッシュアップ推進チーム） とやまツーリズムがツアープランの現地調査
	5	旧跡等の記録と現地調査（ウエルカム推進チーム） プロジェクトチーム「かがやき」全体会議
	6	民話スポットの調査・探検（ウエルカム推進チーム） 富山国際大学が笹川まち歩きマップ作成事前調査 東京笹川会で特産品のPR（ブランド化と特産品推進チーム合同）
	7	富山国際大学が笹川でフィールドワーク（ウエルカム推進チーム） 富山市八尾・松原地区へブルーベリー農園を視察 帰農塾が笹川編を開催 諏訪山・山道開き（史跡等のブラッシュアップ推進チーム）
	8	富山県「新しい街づくりの視点と空き家利活用」セミナーに参加 ふるさと交流会の開催 富山県・田舎暮らし体験ツアー（ウエルカム推進チーム）
	9	愛知県・猿投台中学校が農村交流体験（ウエルカム推進チーム等） 移住者と空き家の賃貸契約に立ち合い（住まい提供推進チーム）
	10	ふるさと魅力発見・まち歩き笹川編（ウエルカム推進チーム等） 災害時における図上訓練（暮らしの安全・安全推進チーム）
	11	笹川地区文化祭・ふれあい直売会（特産品充実推進チーム） 富山国際大学が笹川まち歩きマップ調査（ウエルカム推進チーム） 「有害鳥獣鳥獣対策」タウンミーティング（安全・安心推進チーム） 新川農林振興センター「中山間地・活性化フォーラム」の参加 小矢部市と南砺市へかがやきプロジェクトの視察研修
2015年 (平成27年)	1	自然体験交流リスク・マネジメントのセミナー プロジェクトチーム「かがやき」全体会議 第2回グリーンツーリズム推進のための研究会
	2	笹川まち歩きマップ作成会議（ウエルカム推進チーム） 移住希望者に空き家案内「住まい提供」推進チーム

ー 主な活動内容 ー

- ・平成 26 年 1 月～3 月「農家民泊&体験交流セミナー」



富山県新川農林振興センターが主催する「農家民泊&体験交流セミナー」に参加しました。

このセミナーは3回にわたり行なわれ、農家民泊や体験交流施設の運営方法等を学びました。

セミナーを受講したことで、今後の笹川PRのために何をするべきか考えるよい機会となりました。

第1回『誰が何のためにするのか？どうしたらできるのか？』

第2回『地元にあるもの 自分でできることを提供しよう!』

第3回『実際に企画してPRの準備をしよう!』

- ・平成 26 年 2 月 8・9 日（1泊2日） 石川県「春蘭の里」視察研修



定住・半定住の先進地である「春蘭の里」への視察研修を行ないました。

研修には24名が参加し、交流体験施設の運営方法や農家民泊での「おもてなし」方法などのノウハウを学びました。

- ・平成 26 年 3 月 19 日 かがやきセミナー「笹川のお宝と歴史」



今から830年前の木曾義仲と宮崎太郎の関わりが紐解かれ、諏訪神社をはじめとする地名が語る「笹川のお宝と歴史」について、あさひガイドグループの水野瑠美子さんの公演を開催。

また、地区住民全員で実施した「笹川のお宝アンケート」についても、歴史等の掘り起こしや笹川の誇り、自慢の必要性についてもアドバイスを受けました。

・平成 26 年 5 月 1 日～11 月 笹川の旧跡と民話調査・記録



「笹川のまち歩きマップ（仮称）」作成の基礎資料とするために、ウエルカム推進チームが中心となって、約5カ月にわたり笹川地区の旧跡や民話の里を調査し、記録しました。

この調査と記録は、「笹川まち歩きマップ作成（仮称）」の機運となりました。

・平成 26 年 6 月 14 日 関東地方へ笹川の特産品の PR 活動



「ブランド化推進チーム」と「特産品の充実推進チーム」が東京で開催された「東京朝日会総会」において、特産品の予約受付及び出張販売を行なってきました。特産品の PR だけでなく、多くの予約をいただくことができました。

・平成 26 年 7 月 9 日 新たな特産品の取り組みと就労支援



富山市八尾・松原地区にあるブルーベリー農園を視察しました。経営者である落合さんから、農園の取り組み、管理・運営方法、経営方針、国や県等の支援策等について学びました。

この視察には、笹川地区のダヴィッド夫妻も参加し、今後のブルーベリー作りに活かしていきます。

・平成 26 年 7 月～11 月 富山国際大学「笹川まち歩きマップ」作成



富山国際大学の齊藤助教授のゼミナールの生徒と共同で、笹川地区のまち歩きマップを作成することとなりました。

7月5日に、ゼミ生が笹川地区を巡り、マップ作成の事前調査を行ないました。11月には、フィールドワークを行い、笹川地区の名所等を巡りました。完成は平成27年3月を予定しています。

・平成 26 年 10 月 15 日 災害時における図上訓練



「安全・安心推進チーム」が主体となり、町職員の防災担当者を講師に招き、災害時における図上訓練を実施。地図を使い議論をしながら、災害発生後の笹川の被害状況や対応を予想することによって、笹川地区の防災力を高め被害を軽減するノウハウを勉強しました。

・平成 26 年 11 月 14 日 小矢部・南砺市 先進地視察



笹川地区へ訪れた方へのおもてなし方法と、定住体験施設運営方法を学ぶため、小矢部市と南砺市へ視察研修に訪れました。

小矢部市では、倶利伽羅峠周辺で、朝日町と縁のある「木曾義仲・巴御前」の歴史と観光ガイドのノウハウを学びました。

南砺市では、定住促進ハウスを視察。現在整備を進めている「交流体験施設運営」の参考としていきます。